

# Enhancing Empowerment for Women through Education: A Study Exploring the Link between Non-formal and Formal Education in Indian Context

著者	Debjani Ray
号	20
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	教博第209号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00128556">http://hdl.handle.net/10097/00128556</a>

Debjani Ray

教 授	高 橋	満	教 授	甲 斐 健 人
			准教授	市 毛 哲 夫
			准教授	石井山 竜 平

ちのエンパワーメントにどのように役立っているか。数あるエンパワーメントの種類のうち、どこに分類されるのか。このようなノンフォーマルな教育支援と学校教育には関連性があるか。

本研究では、次のような様々な調査から集められたデータを基に調査結果を報告する：インタビュー、アンケート調査、団体のパンフレット、年次報告書等。インタビューは、様々な相手を対象に、様々な場所で行われた。アンケートは団体の女子学生を対象に行われた。インタビューは、NGO の運営側と、訓練校の卒業生で現在はミッションの病院で働く、FGL (First generation learner ; 家系の中で、教育を受けている第一世代目) を対象に行われた。またアンケートから、教育を受けたことがどのようにエンパワーメントにつながったか、そしてフォーマル教育とノンフォーマルな教育には関係性があるかを考察した。

第1章 Introduction では、次の八つの項目に分けて本論文について説明する；概要、研究課題、研究の目的と明らかにしたいこと、本研究の理由、研究内容の重要性、論文の構成、研究者の役割、そして本研究では調査できない限界について述べた。

第2章 文献調査では、この研究に関連する文献をまとめた。はじめに、この研究で使用した研究デザインと手法を示す。ライフストーリーインタビュー、ライフヒストリーリサーチ、ライフコース理論 (LCT)、フェミニスト理論など、この研究で重要となるさまざまな理論について検討した。次に、女性と社会に関連した教育、そしてそのエンパワーメントへの影響に関する研究についてまとめた。さらに、草の根レベルの教育と、FGL のエンパワーメントへの NGO の影響について検討した。最後に、フォーマル教育とノンフォーマル教育の関係を再検討し、この研究がどのように既存の文献に貢献しているかをまとめた。

第3章では、アンケートに基づいた調査結果を、調査手順と分析とともに示す。ミッション病院の訓練学校に在籍する女子学生に行ったアンケートの調査結果をまとめ、そこから明らかになったことを示す。調査結果について論じ、教育とエンパワーメントの関係についても述べる。

第4章では、ミッションの行っている勉強以外の課外活動の説明と、その影響について詳しく分析した。アンケート調査を通して、それらの活動が、受け手である女性にプラスの影響を与えたか、エンパワーメントを高めているかどうかを考察する。

第5章では、研究対象にした NGO を取り上げる。これは NGO の運営側に対するインタビューに基づいている。農村地域の恵まれない女子学生を教育し、エンパワーメントしているこの NGO の組織編制と活動内容について説明した。村から始まり、市内の一流の学校にまで入学していく過程を描いた。またこの章では、フォーマル教育とノンフォーマル教育の関係についても分析をしている。

第6章では、貧しく厳しい環境から、尊厳のある生活を手に入れることができた若い女性たちの、教育、コミュニティについての意見、そして彼らの経験をまとめた。これは主に、アンケート調査を行った4人の若い働く女性たちへ行った2回のインタビューに基づいている。彼らは、学生として NGO とミッションに関わり、その後、従業員としてミッション病院に雇われた経験を持つ。FGL である4人の若い女性たちの洞察をまとめた。

第7章は、研究全体の結論である。前の章で説明した内容を、ここで再検討そして評価し

た。主に教育と女性のエンパワーメントの関係、そしてフォーマル教育とノンフォーマルな教育の関係について論じている。また、この研究結果の示唆する事柄、そして今後の課題となる事柄を論じた。

本研究は、多くの学者やフェミニストによる研究に基づいている。しかしながら本論文は、教育がインドの女性のエンパワーメントにもたらす影響を具体的に調査したという点で、既存の研究成果にさらに付け足すものである。最も重要なことは、フォーマル教育とノンフォーマルな教育の関係を明らかにしているところに研究の独自性がある。本調査は調査母数が小さいため、結果を一般化することはできない。調査結果の考察や、さらなる調査の展望を議論する。

## ＜論文審査の結果の要旨＞

成人教育の領域では途上国のノンフォーマルの役割への期待が大きい。したがって、UNESCO など国際機関による政策・施策の取り組みも活発に展開されている。しかしながら、その効果やプロセスに関する学術的研究は十分とは言えない現状もある。本研究は、インドにおけるノンフォーマル教育が女性のエンパワーメントにどのように寄与しているのか、という課題に取り組む実証的研究である。とりわけ、非営利組織であるチャリティ団体や NGO などの機関がどのような役割を果たしているのかを鮮やかに描き出すことに成功している。

本研究の学術的意義として次の 3 点を指摘できよう。

第 1 に、インド女性のエンパワーメントにおいて、事例とした非営利組織が運営する看護系の学校が重要な役割を果たしていることを明らかにするとともに、その女性たちがどのように、この機会にたどり着くことができるのかを追跡することにより、NGO 組織が貧困の中にある女性たちへの教育的支援を通して進路を切り開いていることを確認することに成功している。これは学術的にも、重要な実証的知見として評価できる。

第 2 に、この基盤として、村の住民、とりわけ少女たちの親への教育への理解を得るための働きかけが重要な側面であることをつかんだことも特筆すべき点である。つまり、成人教育の役割が大切なことを確認している。

第 3 に、インドは筆者の出身国ではあるが、この調査は、看護教育を提供するミッションの運営者、NGO の幹部との信頼関係を築くことを通して初めて可能となっている。とくに貧困な地帯の村へのアクセスは危険をとまなう旅となる。これを乗り越えるべく NGO の理解と協力を得ることによって調査は実施された。長期にわたる、かつ困難な調査のプロセスが必要であったなかでの成果出会ったことも評価されて良い。

女性たちのライフコースを通して、より長期のプロセスをつかむ分析が必要であること、また、貧困村の住民たちへのヒヤリングがあれば、より重層的な実証ができたはずはある。しかしながら、この研究は、国際的視野から見ても、学術的に貴重な研究として評価することができる。よって、本論文は博士(教育学)の学位論文として合格と認める。